

研究課題名	ダッカ首都圏における薬剤耐性菌による健康リスク軽減のための水質モニタリングと浄化技術の導入		貢献する 主 な S D G s	
研究代表者 (所属機関・役職)	渡辺 幸三 (愛媛大学 沿岸環境科学研究センター 教授)		研究期間	5 年間
相手国	バングラデシュ人民共和国	主要相手国研究機関	ダッカ大学	
研究課題の概要				
本研究は、バングラデシュのダッカ首都圏における薬剤耐性菌による健康リスクの軽減のために、水質モニタリングシステムと排水処理技術を現地に導入することを目的とする。具体的には、抗菌剤と薬剤耐性菌を含む水質項目の調査・分析基準を現地政府の環境局に整備し、河川・病院排水・下水処理場・生活排水等における一般水質、化学物質、薬剤耐性菌を監視する水環境モニタリングシステムを構築する。また、病院排水中の残留抗菌剤と薬剤耐性菌を効率的に分解する排水処理技術を開発し、その市場導入を促すビジネスモデルを提案する。水環境中の薬剤耐性菌による健康リスク評価も行い、そのリスクを最小化する排水処理施設の配置などの最適シナリオを提案する。さらに、抗菌剤使用量を減らす行動変容を促す環境教育プログラムを開発するとともに、ダッカ水環境研究センターを創設し、研究終了後の持続的な活動の拠点とすることを目指す。				